

2007年11月30日

11月30日中間決算説明会 質疑応答(要約)

Q1. 自動車保険の商品簡素化を先行して行っているが、今後損害率の悪化を反映させるような料率の見直しを行う可能性はあるか。

- カーBOX への切替率が、目標としている水準に達していないため、当面は切替促進に優先的に取り組みたい。料率については具体的な検討をしている段階にない。

Q2. 自動車保険の単価下落が拡大している。新商品を投入しているのになぜか。

- 等級進行や車両小型化、年齢担保条件の変化、といった要素が大きく作用し、カーBOXによる単価押し上げ効果を打ち消してしまった。
フリートについては下げ止まっている。

Q3. 2008年度の保険引受利益の見込みを大きく下方修正した要因は何か。また、有価証券売却益を除くと経常利益の見込みも厳しいが、2009年度以降に回復できると見ているか。

- 2007年度通期については信頼回復関係のコストを90億円程度見込んでいた影響が大きい。また、収入保険料の見込みを下方修正しているが、保険金は保険料規模の大きかった頃の支払いが出てくるため、保険引受利益の観点では厳しい状況である。
- 有価証券売却益については、株式のリスクを圧縮する目的で削減を進めており、それに伴う売却益を見込んでいるものである。
- 中期経営計画の3年間で、利益水準を引き上げるべく、規模の拡大と事業費改善を図っている。事業費改善の戦略は当初計画したような形で進んでおり、効果も出てきているが、保険業界を取り巻く環境が厳しく、なかなか利益に繋がっていない。
- 規模の拡大については、信頼回復、説明点検などに重点を置いていることに加え、損害率改善など事業構造改革に力を入れていることなどもあってプラスとなっていない。中期経営計画の最終年度である2008年度については、構造改革を仕上げることを優先させた。これにより2009年度以降の足元を固め、収益力の回復につなげていきたい。

Q4. チャンネル別に見ると、保険代理店の他、生保販売提携チャンネル、金融機関チャンネルで営業数値が落ち込んでいるが、これは業務停止で自粛モードが漂ったという影響があるのか。また、処分が終了し、下期から回復を期待できるのか。

- ▶ 業務停止の影響は、上期で 6 億円程度、通期で 10 億円程度と考えている。金融機関チャンネルについては、住宅着工件数が極めて大きく減少しており、この影響で長期の火災保険が減収している。また、生命保険業界も保険金に関する調査を実施されていたことから損保の販売にも一定の影響があったものと考えている。しかし、徐々に回復してくると考えている。

Q5. サブプライムローン関連では、どういうものを持っていて、どのくらい評価損があるのか。また、ゼストで実施しているオルタナティブの成果はどうか。

- ▶ サブプライムローン関連は、サブプライムローンの組入率 7% で AAA の CDO が一件 10 億円あるのみで、それ以外のコミットはない。また、金融保証等についても、再保険で受けているものも含めて一切ない。従って、一連のサブプライム関連の影響はないものと認識している。
- ▶ ゼストは 2006 年度末現在、契約資産残高が 461 億円になっている。ゼスト以外にも含め、オルタナティブ投資全体ではこの上期に税引き前利益で 44 億円の成果が上がっている。

以上